

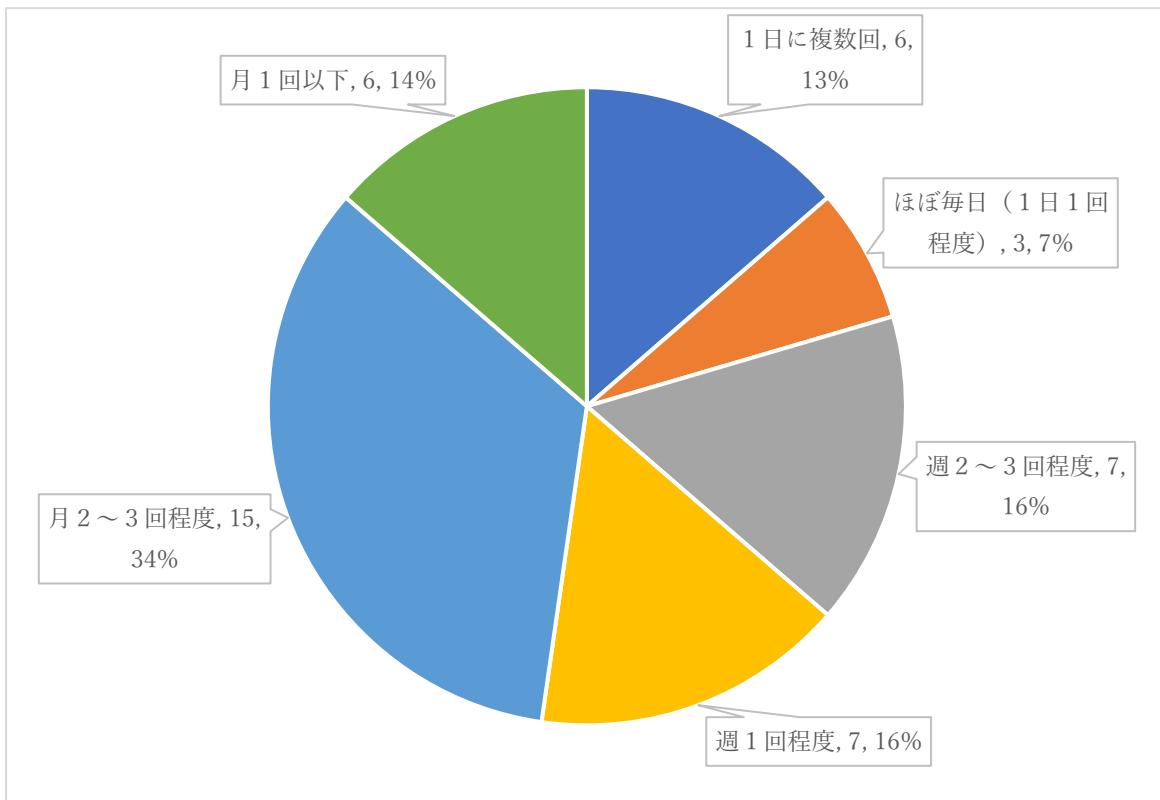
母子保健分野の外国人対応等に関するアンケート

(公財) ちば国際コンベンションビューロー
千葉県国際交流センター

1. 実施主体	(公財) ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター
2. 実施方法	アンケート用紙を下記の施設に送付。 回答は、メール・FAX 又は Google フォーム。
3. 実施時期	令和 7 月 11 月
4. 対象	千葉県内 78 の市町村保健センター等 (千葉県「市町村保健センター等設置状況一覧」ページに記載の保健センター等 に送付。住所が重なっている施設は 1箇所のみに送付した。) https://www.pref.chiba.lg.jp/kenzu/kenkouzoushin/shichousonhokentsaa.html
5. 回答数	44 件 (回収率 56%)

1. 貴センターの母子保健分野の窓口において、どの程度の頻度で、外国人住民の対応をされていますか？

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 日に複数回・・・ 6 | 週 1 回程度・・・ 7 |
| ほぼ毎日 (1 日 1 回程度)・・・ 3 | 月 2 ~ 3 回程度・・・ 15 |
| 週 2 ~ 3 回程度・・・ 7 | 月 1 回以下・・・ 6 |

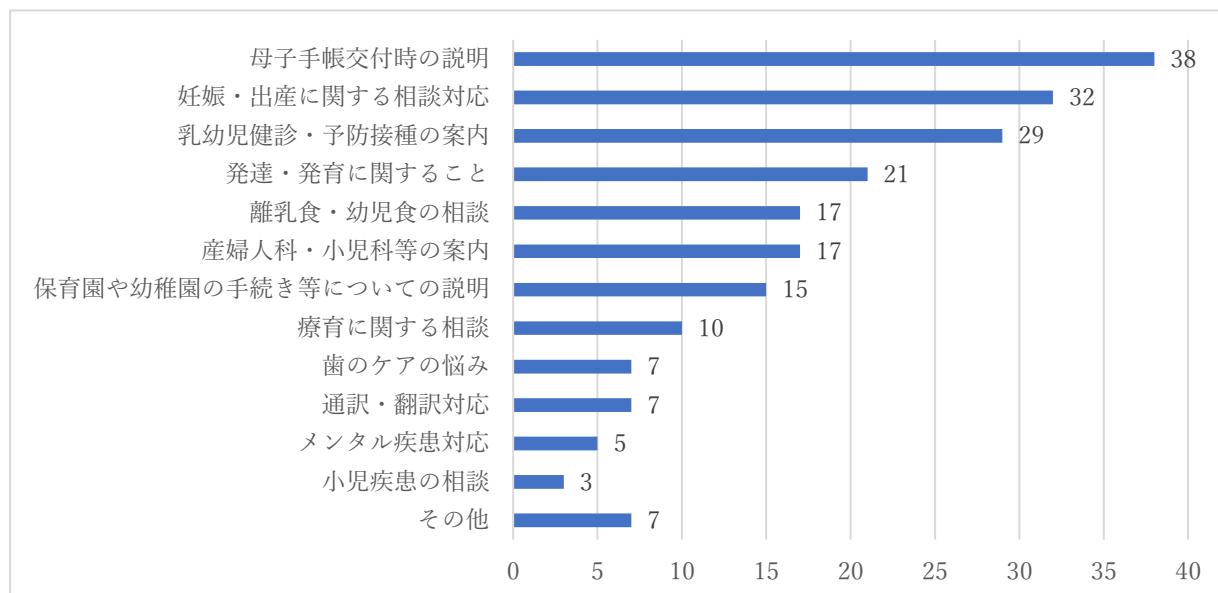


→週に 1 回以上、外国人対応をしているセンターが半数以上を占めている

2. 貴センターの母子保健分野での外国人住民への対応において、どのような業務が多いですか？【複数選択可】

母子手帳交付時の説明・・・38
妊娠・出産に関する相談対応・・・32
乳幼児健診・予防接種の案内・・・29
発達・発育に関すること・・・21
離乳食・幼児食の相談・・・17
産婦人科・小児科等の案内・・・17
保育園や幼稚園の手続き等についての説明・・・15
療育に関する相談・・・10
歯のケアの悩み・・・7
通訳・翻訳対応・・・7
メンタル疾患対応・・・5
小児疾患の相談・・・3

その他・・・7(夫婦の不仲、予防接種に関すること、給付金申請の相談、給付金や各種手続きの案内、生活や経済に関する相談対応、乳幼児の遊び場などの紹介 ママパパ学級の個別実施、行政での手続きに関する説明(出生後の手続き、母子保健事業、就学時の手続き、生活困窮者の相談窓口紹介や各種支援制度を使うための支援など)、妊婦支援給付金の申請、窓口での外国人住民への対応件数なし。)



→保健センターでの外国人対応の業務は母子手帳交付時の説明や妊娠・出産に関する相談対応などをはじめ、多岐にわたっている。

3. 貴センターの母子保健分野の窓口での外国人住民への対応において、お困りのことはありますか？

※主な回答を抜粋

日本語による意思疎通が難しいという回答が 27 件と非常に多く、その中でも翻訳アプリ等を活用しても細かいニュアンスが伝わらないことや相手の困りごとや気持ちを汲み取ることが難しいこと、制度等がそもそも母国と異なることでより説明が困難になることなどが示唆された。また、言語の壁だけではなく、母国との文化や子育ての習慣の違いから、指導や助言等の対応が難しいという悩みも多く聞かれた。

①言語の壁によるコミュニケーションの困難（27）

- ・言葉の壁があり、意思疎通が難しい。細かいニュアンスが通じない。
- ・英語も通じないケースが増加している。
- ・日本語ができる夫を介してコミュニケーションを取ると本人の真意が分からず、また仕事等で夫が多忙な場合、電話等での連絡が取りにくく。
- ・外国語対応の医療機関が少ない。
- ・出生届など日本の制度を知らない外国の方へ、制度を説明することが難しい。
- ・翻訳アプリ等を活用しても下記のような課題がある。

正確に訳されているか分からない。細かなニュアンスが伝わらない。

専門用語・制度説明が伝わりづらい。

支援を必要としている内容が伝わりづらい。

本人の理解度を確認できない。

「大丈夫」と答えるが、真意や理解度が不明。

妊娠婦本人の気持ち・不安・メンタル状態を把握できない。

本人の気持ちに寄り添った声がけが難しい。

②文化・価値観の違いによって指導や助言等の対応に困難を感じている（7）

- ・育児方法、離乳食、生活習慣が日本と異なるため、指導や助言に戸惑う。
- ・そもそもそれが母国の子育て習慣なのか本人の考え方なのかも分からず。
- ・文化や習慣の違いによって対応に困ることがある。
- ・人種の違いにより体格が日本人と異なるので発育の評価が難しい。

③通常よりも説明等の対応に時間を要する（5）

- ・翻訳機の活用や親戚や知人等が複数名で通訳として来所するなどの場合、対応に時間を要する。また、母国と母子保健制度が違うため、説明に時間がかかる

④予防接種の履歴が分からない（3）

- ・外国にはほとんど母子手帳や同等のものがないため、予防接種の履歴が分からない。
- ・外国から転入した場合に、母子手帳がないため予防接種の接種歴がなく確認する方法がない。（保護者に聞き取りしてもあいまいな記憶でわからないことが多い）

⑤その他

- ・日本に住民票を残したまま出国するなど、居所不明になる方が多い。
- ・出国していることが多く、健診未受診で訪問してもいないため無駄足になることが多い。
- ・住民票がない（在留カードがない）場合は、市の公的サービス対象外であるため、対応困難。

4. 地域の外国人母子が抱えている困りごととして、把握していることがあれば教えてください。

アンケート結果から、外国人母子は相談先や支援者の不足により孤立しやすく、加えて日本語による情報取得や手続きが困難なため、必要な母子保健サービスや支援につながりにくい状況が多く見受けられた。

また、経済的困難や在留資格の不安定さ、移動手段や文化・宗教的背景の違いなどが重なり、複合的な課題として母子の生活・健康に影響を及ぼしていることが明らかとなった。

①外国人母子の孤立（15）

- ・相談先やコミュニティが少ないこと。
- ・同じ国出身の母はおらず会話もカタコトなため、ママ友など身近に相談できる人がいない。
- ・知り合いがいないため、孤立しやすい。情報がわからない。
- ・父は外国人のコミュニティに所属していて日本国内に友人がいることが多いが、母の多くはコミュニティに所属しておらず孤立しがち。
- ・支援者が希薄なため、母や子が体調不良時の対応（預け先の確保）が困難。
- ・サポート者不足（母国から支援者が来ない、父も育児休暇の取得が難しい等）言語面の問題から日本での母子保健サービスや各種手続きについての理解が難しいため情報不足になりやすい。

②言語コミュニケーションの困難（13）

- ・日本語ができず、母子だけで病院受診や行政の手続きができないこと。
- ・日本語でのコミュニケーションや書類の読み書きが難しいので、書類に目を通したり記入をするときに時間がかかる。
- ・ほとんどが日本語での情報発信のため、育児情報を得にくい。
- ・手続きや相談の場で日本語が分からず困る。
- ・言語面の問題から日本での母子保健サービスや各種手続きについての理解が難しいため情報不足になりやすい。
- ・言語面の問題から、困った時にSOSを出しにくい。

③生活困窮・経済的な厳しさ（5）

- ・金銭面が厳しい
- ・移動手段がない

④在留資格（4）

- ・在留資格、在留カードの期限切れで職権消除になる外国人がおり、支援ケースとして把握していないと、母子保健サービスを受けられていない人が一定数いるのではないかという懸念がある。
- ・難民申請中の妊婦で、国保や生保などの公的サービスにつなげられない。

⑤その他

- ・車を運転することができず移動に困る
- ・療育につなげたいケースがあるが母国語も日本語もわからない
- ・日本の文化に馴染めない
- ・保護者自身が日本語を学べる機会
- ・宗教上の問題としての、出産時の医師の性別指定やワクチン接種にかかること（公衆衛生の視点との相違）。
- ・就職先
- ・困りごとを確認できるほどコミュニケーションがとれない。

5. 外国人母子に対して、どのような支援が必要だと感じますか？

多言語での母子保健資料の提供・・・38

その他、外国人母子が孤立しないための支援・・・32

通訳・翻訳・・・32

外国語が通じる小児科や産婦人科・・・26

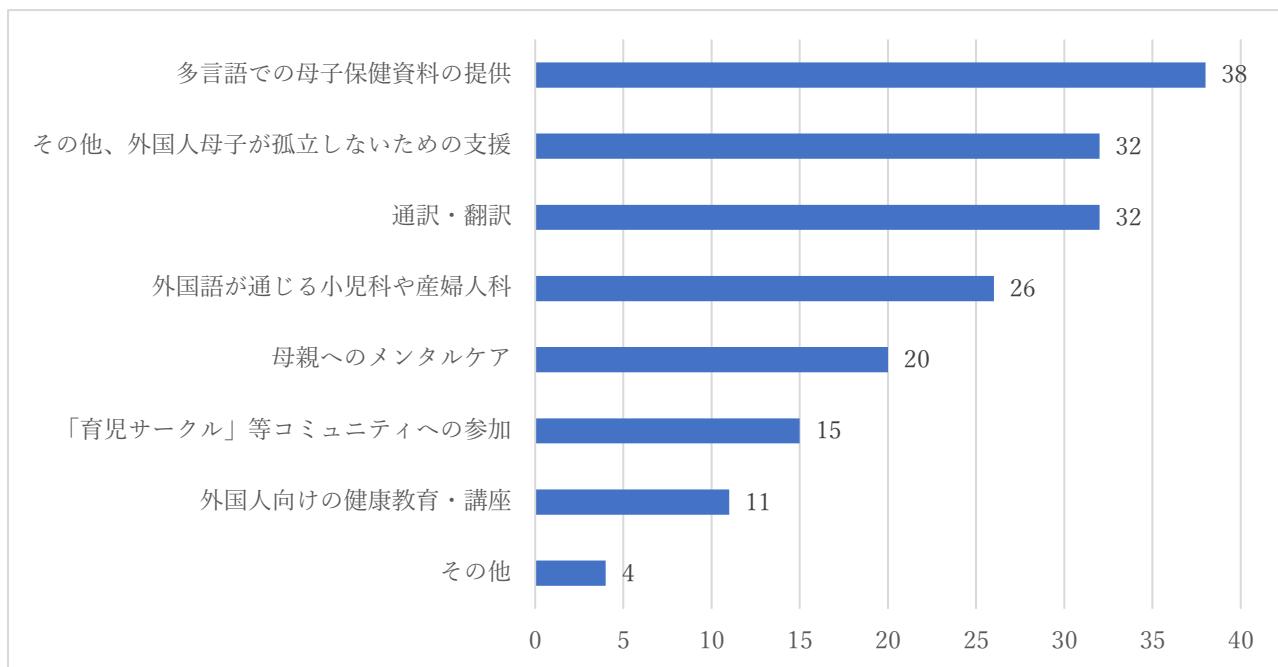
母親へのメンタルケア・・・20

「育児サークル」等コミュニティへの参加・・・15

外国人向けの健康教育・講座・・・11

その他（自由記述）

- ・緊急時にSOSが出せるような外国語が通じる育児相談ダイヤル
- ・外国人が地域で生活を送るための支援（翻訳、婚姻、出産のための手続き支援）
- ・外国人住民ならではの困りごとが相談できる窓口（千葉市だと各区1か所はあるとよい）
- ・入国時の母子保健に関する情報提供（母国語で日本の制度を翻訳した情報を見ても、文化的な違いを理解していなければ、日本が意図する制度・支援と目的が異なるため）
- ・必要な行政手続きの周知やサポート



6. 外国人母子の対応に関して、貴センターでのお困りのことやお知りになりたい情報などがありまし
たらご記入ください。

- ・通訳、翻訳サービス（フランス語、リンガラ語）
- ・英語だけでなくベトナム語、タイ語、中国語等多言語対応できるツールや交流できる場、24時間対応の相談窓口があると良い。
- ・外国人母子の相談先やコミュニティについて。
- ・英語以外の資料（シンハラ語、中国語、ベトナム語、フィリピン語）
- ・国別の予防接種情報
- ・健診時、発達面について言語の壁の影響なのか、本人の特性なのか見極めが必要。家族は困り感がないが、所属先は対応に困っているなど。文化の違いが影響しているのかも気になる。
- ・妊娠届から関わることが多いのですが、出産前までの婚姻届や認知のこと、大使館での手続きのことなどを把握されていない方が多く、結果的に母子保健が支援することになることが多い。専門的な相談ができる窓口などがあればよいと思う。
- ・県人会のような「○○市○○国人の会」などがあって必要なかたへ情報提供が可能であればよいと思
う。
- ・外国人母子に対して翻訳アプリ等を利用しながらコミュニケーションをとっているが、翻訳アプリでは専門的な内容や細かいニュアンスが伝わりにくく困っている。
- ・英語対応できる医療機関情報
- ・様々な外国人の方がいますが、本市にはベトナム語やポルトガル語、スペイン語を使う人が多くいま
す。離乳食の資料などは多言語で作っていますが、本当に合っているのかと不安に思います。また、離乳
食のすすめ方や使う食材、ミルクを使う時期など文化による違いもあると思われる所以気になります。
- ・日本では1歳半健診や3歳児健診は法定健診だが、外国では異なるのか知りたい。

- ・健診の通知を郵送しても受診につながらない。外国語に対応できる職員がおらず、対応に苦慮している。
- ・ベトナム、タイ、フィリピン、マレーシアなど多様な外国人家族がいるため、言語がさまざまに対応が難しい。
- ・単独市では人口規模により対象となる外国人数も限定的であるため、サークルなどのコミュニティが作られにくい。外国人サークルは存在するものの、外国人としてひとくくりにされても、同じ文化や価値観でない場合、共感を得にくく、ピアサポートとなることが困難となることがある。県など広域レベルでのコミュニティなどは存在するものなのか。
- ・「赤ちゃんへの気持ち質問票」や「子育て支援チェックリスト」など、市や県で翻訳している自治体はあるようだが、共通で利用できるものがあると良い。
- ・育児相談、幼児健診問診票や案内文の外国語版作成時のポイント、注意事項、作成の進め方や相談先などの情報があれば参考にさせていただきたい。
- ・里帰り出産で自国に出国した後、帰国しているかどうか確認ができないことがある。
(無事に出産できたかどうかも含めて。住民票を置いたままの方がいた場合、追えない。)
- ・外国人同士の方の結婚でもどちらかが日本語ができる方がいるケースが多いが、日本語ができない場合の対応に苦慮します。
- ・各言語について対応可能な病院の情報、育児についての文化が異なるため、各国の一般的な育児知識についての情報、医療や母子保健の専門用語にも対応できる通訳についての情報等について知りたい。
- ・不法滞在含め、入国の経緯がわからない、コミュニケーションに多大な時間を要することに困っている。